

[014]九州大学ビジネス・スクールニューズレター

<https://hdl.handle.net/2324/2228922>

出版情報：九州大学ビジネス・スクール ニューズレター. 14, pp.1-, 2012-04. 九州大学ビジネス・ス
クール
バージョン：
権利関係：



QBS8期生の旅立ち

3月24日(土)にQBS・8期生の修了式が、九州大学国際ホールにて行われました。修了式には平成23年度修了の8期生をはじめ、家族など100名近くが出席し、山本健児経済学府長より学位記が授与されました。



第5回 QBSフォーラム開催

3月3日(土)、九州大学21世紀交流プラザにて、「第5回QBSフォーラム」【主催:QBS学生会、後援:QAN(QBS Alumni Network)】を開催いたしました。QBSフォーラムは、それぞれのゼミで取組んだプロジェクト演習の成果を発表し、これまで得た知識、問題意識及び提言等の共有を図ると同時に、論文の作成にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまへの成果の報告の場としているもので、今回は13名が発表しました。

様々な困難に直面しながらも、互いに励ましあい、切磋琢磨してきた仲間の発表はどれも感慨深く、QBSの修了生や在校生、新たにQBSに加わる10期生を交えてのディスカッションを通じ、インタラクティブかつ有益なフォーラムとすることが出来ました。

フォーラムの開催にあたっては、9期生が中心となり準備を進め、QANの皆さまからの温かいご支援をいただくなど、QBSのつながりを改めて強く感じるとともに、諸先輩方から受け継いできたフォーラムという場を盛会に終えることができたことを嬉しく思います。

私たちQBS8期生の修学にあたりご支援やご協力をくださった多くの関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

神野 寛文(8期生)



10期生45人が入学

4月7日(土)にQBS・10回目となる入学式が、九州大学国際ホールにて行われました。入学式に続いてガイダンスも行われ、満開の桜の下、新入生45名は緊張した面持ちで新たなスタートを切りました。

編集発行/九州大学ビジネス・スクール
担当/QBS事務室
住所/〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
電話/092-642-4278
メールアドレス/bs@en.kyushu-u.ac.jp

●九州大学ビジネス・スクールに関するお問い合わせ
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学貝塚地区事務部教務課学生第四係
TEL.092-642-4167
ホームページ http://qbs.kyushu-u.ac.jp/

在校生紹介



本竹 真徳さん(9期生)
所属
九州旅客鉄道株式会社

QBSでは講義の中だけではなく修了された先輩方や9期生の仲間からもいろんな事を学び成長していると日々感じています。また関西MBAやICABE、修了生の先輩方とのつながり、九大生としての特権、学外のイベント、QBSという枠だけでは括りきれないんじゃないかと思うぐらい、このQBSには学べる機会や活かせるものがひしめき合っています。ただし、それを活かすも殺すも、気づくも全て自分次第だと思います。今は学びの学生であり失敗しても許される場であると思います。自分のプライドや恥をかかずに捨て貪欲に学んで行きたいと思っています。

QBSに入学し間もなく1年間が経過します。残り1年間で自分に何が出来るだろうかと考えることがあります。いろいろ成したいことはありますが、来年の修了式に「一片の悔いも後悔もなし」と胸を張って話せるように、この1年間、共に学ぶ仲間や支えてくれている家族、職場の同僚に感謝をしながら、過ごして行きたいと思っています。



岩田 賢さん(9期生)
所属
凸版印刷株式会社

「マネジメントも技術の一つ」との考えから系統立てて勉強を行うことを目的にQBSへ入学し1年が経過しました。埼玉県出身で現在業務の都合で福岡にきています。関東に戻ってからビジネススクールに通うべきか迷っていました。しかし自分のやりたいことを優先し、QBSの門を叩いたのは間違いではありませんでした。QBSはMBAを標榜していますが、MOTの科目も充実しており理系出身の私にとって満足したカリキュラムとなっています。当初QBSではネットワークの構築が九州に限定されてしまうと考えていました。しかし他のビジネススクールとの交流する機会も多く、国内に限らず海外のネットワークが構築できます。一粒で二度美味しいとはまさにこのことではないでしょうか。

多くの方々のサポートと理解なくして仕事とQBSでの学びを両立させることはできません。このような機会を与えてくれた方々への感謝の気持ちを忘れず、残り一年となったQBSでの学びを実りあるものにしていきたいと今回改めて考え直す良い機会となりました。

 **QBS**
九州大学ビジネス・スクール
Kyushu University Business School

TOPICS

QBS創立10周年を迎えて



2003年に創立された九州大学ビジネス・スクール(QBS)は、今年10周年を迎えました。この歳月は、教育という普遍的な営みを担う組織としてのQBSにとっては、その活動が漸く緒に就いたばかりであることを意味している過ぎません。しかし、その教育が扱うビジネスの側からみれば、QBSに変化をもたらすに十分な長さの歳月であったと言えるでしょう。俳聖に由来する不易流行という警句を引くまでもなく、QBSにおける始まりの10年は、教育の普遍的な価値を追求しながら、同時に時流の変化に対応しようとする努力のうちに過ぎました。

この間、QBSが直面してきた最も重要な変化は、ビジネス教育に対するニーズの高度化と多様化であったと思われます。ビジネススクールの根幹であるMBAプログラムは、複雑な状況に対応できる分析能力と問題解決能力に優れた管理者を育成する目的に対して最適化されてきました。ところが、近年の日本経済をとりまく環境の不確実性は、環境変化の動向を先取りできる問題発見能力を持ち、その上で新たな価値を創造できる経営人材に対するニーズを高める要

因として作用してきました。

このような人材ニーズに応えるためには、ビジネススクールの教育プログラムにも多様性を組み込む必要があります。これまでQBSは、継続的にMBAプログラムの質的向上を図るとともに、短期エグゼクティブ・プログラムや次世代経営者育成プログラム等を社会連携事業として提供し、あるいは事業創造力の育成を目的としたビジネスプラン・コンテストを開催するなど、多角的な取組を推進することによって、この課題に添えてきました。

一方、東日本大震災によって未曾有の経済損失を被った上、デフレ不況が長引く中で、世界経済危機に起因する歴史的な円高に見舞われるといった日本経済の状況は、その不確実性が一層拡大しつつあることを示しています。この状況は、問題発見能力と事業創造力に優れた人材の輩出が、益々待望されることを意味するものです。次の10年に向かうQBSの課題は、この人材ニーズに添えていくことにあります。そのために、補完的な教育プログラムの拡充と、その統合的な運用をはじめとする多様なアプローチが試みられることになるでしょう。学生諸氏が、QBSの新たな挑戦に積極的に参加されることを期待しています。

九州大学ビジネス・スクール専攻長 永田 晃也

BBIQ スタモニ ビジネススクールOA開始!

約6年間にわたって放送されましたクロスFM「BBIQモーニングビジネススクール」は2012年3月30日をもって放送を終了し、装いも新たに、FM福岡「BBIQスタモニビジネススクール」として生まれ変わることになりました。「BBIQスタモニビジネススクール」は2012年4月2日より放送を開始しております。



6年にわたってcross fmで放送してきたBBIQモーニングビジネススクールが、この3月末をもって終了いたしました。まずは私の拙い司会にお付き合いいただいた先生方、修了生、在校生、そして周りでサポートして下さった皆さんに、この場を借りて感謝を申し上げます。この6年を振り返ると、放送内容を含めひとつひとつが貴重な学びでしたが、とりわけ印象に残っているのは、「大人からの進化術」(QBS出版)を出版したことです。この本はQBSの修了生、在校生へのインタビューを記録したもので、働きながら学ぶ社会人学生の皆さんに話を聞いたことは、私自身が元々目標にしていた大学院進学への後押しになりました。まさにQBSは私の人生に多大な影響を与えてくれたと言えます。番組は終わりましたが、「さようなら」ではなく、「今後ともどうぞよろしくお願い致します」という言葉で結びたいと思います。

メディアジャーナリスト 後藤 心平



はじめまして。FM福岡アナウンサーの西川 さとりです。自分の意志で、身銭を切ってQBSに通っている方とは違い、『スタモニ』のリスナーには中学生や専業主婦、おじいちゃんおばあちゃんなどビジネスの分野とは縁遠い方も大勢いらっしゃいます。そういうリスナーと先生方との架け橋になれるよう私は頑張るつもりです。理論は大事。でも、理論オタクじゃいけない。それらが今の日本に、福岡に、リスナーの生活にどう影響があるのか、それに対してリスナーはどうアクションを起こせばいいのか、そこを具体的に提示するのがラジオメディアの役割なのです。リスナーが明日への一歩を踏み出したいくなるコーナーを目指します。

FM福岡アナウンサー 西川 さとり



『BBIQ スタモニ ビジネススクール』

放送局: FM福岡(福岡 80.7MHz | 北九州 80.0MHz | 久留米 82.1MHz | 大牟田 87.0MHz | 行橋 81.8MHz | 糸島 81.3MHz | 宗像 84.1MHz)
放送日時: 毎週月曜日~金曜日 7:32~7:40 番組パーソナリティ: 西川 さとり

TOPICS

QBS教員紹介



QBS専任教員の中では最も「新顔」の私ですが、この4月でQBSに移籍して3年経ちました。大学という新たな組織、その中でもビジネススクールというユニークな環境にあって、いかに自らの経験・知識や考えを議論を通じて学生の皆さんと効率的、効果的に共有し発展させられるか、この課題についてはまだまだ「発展途上」を自覚しています。

QBS以前は約30年間銀行に所属しましたが、官庁、海外現法、シンクタンク、そして自動車メーカーの本社、海外現法など働いた場所は様々でした。この間の職務内容をキーワードで表現すれば、一つは「国際金融」で、プラザ合意やバブルとその崩壊、金融制度改革やアジア通貨危機、ユーロの導入やEUの拡大などの事象を、それぞれの現場で或いは間近で直視する機会に恵まれました。もう一つはQBSでの担当科目と直結する「財務」ですが、その原点は支援目的で派遣された自動車会社の海外現地法人CFOとしての経験です。業績回復の期待を担い投入された現地新型モデルのローンチとほぼ同時期の着任でしたが、そのモデルの販売が全くの空振りに終わった後、広大な敷地を日に日に埋めて行く新車と海外調達部品の在庫の処理、そして当然のごとく襲い来る百億円単位のキャッシュの不足と連日悪戦苦闘しました。それまでお金の流れとして捉えてきた経済活動の実業部分の威力を思い知らされた貴重な経験でした。

これまで欧米関連の仕事が多く相対的にアジアとの関わりはそれほどありませんでしたが、「アジアに開かれた」QBSでは機会にも恵まれて留学生指導やその他の国際交流活動にも積極的に臨んでいます。今年度はQBSで国際連携を担当させていただきますので宜しくお願いします。研究面でも2つのキーワードを生かすべく、マクロとミクロの融合を図った形での日本企業の「財務戦略」と「アジア展開」を中心としたテーマに取り組んでいます。

私生活面では、アウトドア派を自任していますが、出生地福岡における半世紀ぶりの生活は今までのところ新たな発見も多く、昨年合流した家族共々楽しんでます。先祖が江戸末期に記し、なぜか九大に資料として所蔵されている「道中日記」とも昨年対面を果たし、その案内に沿って小旅行も敢行しました。一方、「国際交流には言葉が重要」と挑戦しかけた中国語の方は進歩の予感すら感じられないため、今のところは専ら中国の歴史学習を交流の礎とすべく励んでいるところです。

平松 拓
(フィナンシャル・マネジメント、マネジメント・コントロール)

QBS BOOKレビュー「この1冊」

『暗黙知の次元』(The Tacit Dimension)
M.ポラニー、紀伊國屋書店、1980年(1966)

タイトルからお分かりのように、「暗黙知」についてはじめて哲学・認識論的に解き明かしたマイケル・ポラニーの原著日本語訳です。著者マイケル・ポラニーは『大転換』で有名な経済人類学者カール・ポラニーの弟で、物理化学者そして後に科学哲学者として、本書のもととなる『個人的知識』を1958年に著しています。『個人的知識』の方は日本語訳で460ページと大部ですが、本書は訳者あとがきなどを入れても146ページですので、是非一読されることをお勧めいたします。ただし短くだけで手軽に読めるとは約束できません。

「暗黙知」という用語は知識経営論の鍵となる概念であり近年では他分野でも使われていますので、QBSの院生でこの用語を知らない人は

まず皆無でしょうから、あらためて解説はいたしません。「暗黙知を形式知に」というフレーズはQBS生の間でのみならず最近ではいろんなメディアでよく見聞しますが、当初から私はそれに違和感を持ちこの用語のオリジナルである本書を読んでみました。M.ポラニーによる本書には「形式知」という用語は出てきませんし、「暗黙知」は「個人的知識」であり「コード化された知識」(形式知?)には容易には転換できないようです。



QBSは専門職大学院であり研究が本義ではありませんが、重要な用語や概念については正しく理解して使わないと、大やけどにつながりかねません。社会人が中心となる皆さんは特に、QBSでの勉強は日々の業務に直結していますので事は重大です。M.ポラニーが強調するように「知る」ことは大変な努力と情熱が要りますので、分からないことや疑問をもったことには、覚悟して時間をかけて理解に努めてください。

久野 国夫
(産業と技術)

第16回 ICABE学生交流プロジェクト
タイ訪問



ジェットロにて

3月17日より4日間の日程でICABEタイ訪問を実施しました。私にとって初めてのタイ訪問でしたが、まさに「微笑の国タイ」を実感することができました。今回のICABEの概要はチュラロンコン大学とのビジネスプラン発表を通じた交流とタイ現地企業の訪問です。現地企業訪問は、ジェットロの訪問を皮切りに、印刷・出版関係のアマリン社、タイ最大のビール、シンハービールのビール工場訪問、警備保障会社のセコムの子会社タイ現地法人の訪問を実施しました。また、夕食時には、福岡県パナソニック事務所の諸富所長、タイ在住16年で人材派遣会社を営んでいる福岡出身の小田原社長をゲストにお招きして、タイの国内事情を詳しく伺うことが出来ました。チュラロンコン大学とのビジネスプラン発表は、事前の準備に参加者の皆さんが発表の直前まで、四苦八苦しながらも力を合わせて完成させ、発表することが出来て、とても貴重な体験をさせて頂きました。今回のICABEで学んだことは、単に異文化を体験することだけではなく、ICABE交流会そのものを組み立てることを通じて「何もない状態から形あるものへ創り上げることの大切さ」ことだと感じます。そこには、様々な方々の知恵と行動力を借りながら形を作っていくこと。ビジネスシーンにおいて、リーダーシップをさらに発揮させるために大切なものを今回のICABEで学ぶことができました。

日高 美治(9期生)



チュラロンコン大学にて



シンハービール工場にて

TOPICS

塩次教授・出頭教授・古川教授の最終講義

平成24年3月をもって、QBSの教員3名が退職を迎えました。塩次喜代明教授は2月6日(月)、古川久敬教授は3月1日(木)にそれぞれJR博多シティ10階において最終講義を行い、出頭則行教授は3月10日(土)にホテルニューオータニ博多にて最終講義を行いました。いずれの最終講義にも多くの教員・在学生・修了生が駆けつけました。



塩次喜代明教授の最終講義



古川久敬教授の最終講義



古川久敬教授の最終講義



出頭則行教授の最終講義

修了生紹介



三村 史さん(1期生)
所属
テロイトーマツ コンサルティング
株式会社

QBSに通い、人生が変わりました。それだけQBSは価値があります。入学当時、日中の合弁会社で、ある日本食品を中国で生産販売する事業の立上げに携わっていました。しかし、生まれて初めての事業立上げ、中国という知らない市場、毎日が苦戦ばかりで、自分の力不足を感じる日々でした。何とか現状を打破したいという一心で、QBS入学を決意したのです。QBSに通っている頃は、講義で学ぶことを自身の仕事に応用したり、先生方や学友との交流から仕事のヒントを得たりと刺激的な日々でした。結局、入学動機となった会社は在校中に解散し失業者となったのですが、現職に就いたのはQBSの先生や同期の皆様のご支援があったことです。現在でも仕事の上では悩むことばかりです。そんな時、困った時のQBSネットワークではありませんが、皆様方から様々な情報や知恵、刺激を頂き、先に進んでおります。兎に角、QBSで私の世界は広がりました。



伊東 謙一郎さん(8期生)
所属
パナソニック
システムネットワークス(株)

QBSでの2年間で先月終わった。夕方、逃げるように職場を離れてQBSに通った生活がなくなり、正直まだ今の生活がしっくり来ない。授業で印象に残っているのはビジネススクールならではのケーススタディである。ある企業の経営者が直面する課題についてそれぞれの意見を述べるのだが、その企業や業界について事前の入念なリサーチが必要なため、クラスメイトと授業のあとに勉強会を行ったり、Skypeを使って遠隔ミーティングをしたりとお互い時間がない中で工夫してやってきたことが思い出深い。授業以外ではICABEでシンガポールに行き、現地の大学でのビジネスプラン発表や、空港や港湾施設への訪問を行い、現地学生の意識の高さや、日本のインフラ事情が如何に世界に遅れているかを痛感させられた。このようにQBSに通わなければ決してできなかった様々な貴重な体験をすることができ、その間、家庭を犠牲にしながらも私の修学を応援してくれた妻には心から感謝したい気持ちでいっぱいである。